



竹富町キャラクター
「ピカリヤ」だよ！

アンケート調査開始 3 日目 **ゆぶ** 由布島の歴史に触れる！

今朝も雨が激しく降る中、美原地区の高田公民館長さんを訪問し、夜の集団記入会の打ち合わせをしました。

あまりに雨が激しいので、館長さんが気の毒がって、公民館を開放し、地域の歴史や風土、祭事を話してくださいました。

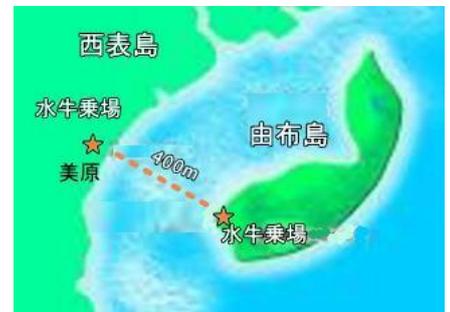
美原地区は、対岸の由布(ゆぶ)島から移住した人たちが中心の集落です。由布島は、海流により砂が堆積してできた砂の島で、歩いて渡れ、牛車が観光客を乗せて訪れる島として有名ですが、昔は、たくさんの島民が住み、小・中学校もあったそうです。

西表島は、戦争マラリヤで知られるようにマラリヤを運ぶ蚊がいますが、由布島は、砂地で水たまりがなくボウフラがわからないので、マラリヤの心配がありません。そこで、田んぼだけ美浜地区で作り、牛車で往復しながら普段の生活は由布島で営んでいたそうです。

しかし、1969年(昭和44年)の台風(エルシー台風)により壊滅的被害を受けたため、ほとんどの人が美原地区に移住し今の集落ができたそうです。地域の人と触れ合い、色々なお話を伺いながら、アンケート調査を続けています。



祭りに旗の上に飾る飾りの説明をしていただいた



美原地区、ほぼ100%のアンケート回収率？！



質問には丁寧に答えアンケートを記入していただきました

不安定なお天気でしたが、美原地区の集団記入会も雨の中となりました。まず、6時半から美原地区の対岸の「由布島」の人たちの記入会。

大潮で雨も降るので西表島に來れないかもしれないと心配しましたが、島民7人のうち5人が参加されました。

7時からは、美原地区の住民の記入会。公民館長の事前の連絡もあり13人が参加。家族の持ち帰りも含めてほぼ全員(認知症の方を除く)のアンケート記入が見込まれます。

由布島の参加者からは「由布島の歴史を知った上での調査だということがわかった」「残りの2名にはよく説明してアンケートを書いてもらい公民館長に届ける」などの声が寄せられました。

美原地区の参加者からは、「介護保険やこれからの暮らしのことを初めて考えた」「公民館長から来て欲しいと言われたから来たが、みんなと話し合いながら記入することで自分の将来を考えるきっかけになった」などの声がありました。

高田公民館長は、「悪天候の中多くの方が集まってくれた。この繋がりが美原地区の強みだと思う」と話していらっしゃいました。

この3日間で最も参加率の高い集団記入会となりました。